



NPO POP NEWS=(略して)『Npop'n』

新宿NPO協働推進センターから、社会貢献活動に関連したPOPなNEWS(話題)をお伝えします！

共感から行動へ。新しい応援・支援のカタチとは？

社会課題が多様化・複雑化する中で、NPOを応援・支援するあり方も大きく変化しています。第3回交流イベント『NPO×応援団体×共創』を開催し、NPOと応援・支援団体が未来を見据え、共感を原動力に、具体的な行動へ繋がるための新たな応援・支援のあり方について議論を深めました。

◆登壇者/登壇団体

白鳥 環 氏

(認定NPO法人ETIC. ソーシャルイノベーション事業部 シニアコーディネーター)

渡辺 日出夫 氏 (特定非営利活動法人日本NPOセンター 情報化支援事業担当)

長谷川 隆治 氏 (公益財団法人日本財団 経営企画広報部部長)

◆ファシリテーター

山下 馨 氏 (一般社団法人NPO協働機構 代表理事)



◎事例紹介① 白鳥 環 (しらとり たまき) 氏

ETIC.は起業型リーダーを支援する様々な事業を行い、行動する人に伴走して新しい社会を起こすことを目指して活動しています。

社会課題への関心が高まる一方で、NPOやソーシャルセクターでは人材不足が大きな課題となっています。SNS等を通じて、社会課題に関する情報を得ることが容易になったものの、社会課題を解決するための活動に参加するために、どのように行動すればよいのか分からないと感じている人が多いと言われています。また、十分に理解しないまま活動に参加し、理想と現実のギャップに悩むというケースも少なくありません。

ETIC.では、次の3つのステップで、NPOの現場などで体験を積み、徐々に関わっていくことで、社会課題の解決方法のパターンやアプローチする方法を知ることが社会課題に取り組む上で有効だと考えています

①「手伝ってみる、触れてみる」

興味や共感を持った活動にボランティアやプロボノとして関わってみる。期間限定でも、現場に飛び込むことで見てくる。

②「事業を担ってみる、修行する」

社会人の場合は副業として関わること、学生の場合はインターンとして実践の中で経験を積む段階です。現場で課題解決の方法やチームで働く感覚を学びます。

③「つくりたい未来のつくり手になる」

NPOやソーシャルセクターへの転職・就職、自ら起業する、あるいは企業内で社会的事業を立ち上げるなど、自分の想いを形にしていくステージです。

◆NPOへのメッセージ：

多様な関わり方（ボランティア・プロボノ・インターン）を用意し、関わる人たちと「仲間の輪」を広げましょう。団体の魅力を磨き、積極的に発信することも大切です。

◆若者へのメッセージ：

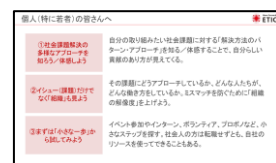
社会課題に関心があるなら、小さな一歩から始めてみませんか。現場に触れることで、自分らしい関わり方が見つかります。ETIC.は行動するあなたを応援します。



白鳥氏



参考資料①



参考資料②

◎事例紹介② 渡辺 日出夫（わたなべ ひでお）氏

デジタル化が急速に進む現在、私たちの生活や仕事は、ITなしでは成り立たない時代となっています。その一方で、ITを十分に活用できない人や組織が取り残される現状もあります。NPOの現場でも、同じような問題に直面しています。

日本NPOセンターは、2009年から米国発のIT企業の社会貢献プログラム「テックスープ」日本支部の運営を担い、NPOへのIT支援やニュースレターの発行などを通じて情報化支援を進めてきました。しかし、テックスープの本部の方針転換に伴い、その活動から離れることになりました。

これを機に、非営利法人のITリテラシーを高めるため、新たにIT企業と連携して「NPTEchイニシアティブ」を立ち上げました。現在は、初心者向けセミナーを無料で開催し、ITを安心して活用できる環境の支援を進めています。

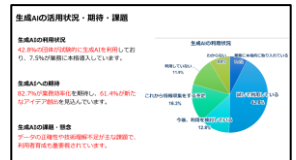
セキュリティ事故の多くは、人的ミスによるものです。データのバックアップ不足、ソフトの未更新、個人アカウントの業務利用、パスワード管理の不備、無料ツールの多用など身近なところに問題が潜んでいます。こうした状況を理解し、日常的に予防策をとることが大切です。

多くのNPOが広報活動の強化にITを用いています。今後、Webサイトの機能強化、支援者管理システムの導入、業務の可視化、そして情報セキュリティ対策を進めたいという声が多く寄せられています。また、生成AIを活用している団体も4割に上ります。一方で、約9割の団体でIT人材が不足しているのが現状です。

日本NPOセンターでは、新たな情報化支援プログラム「デジタルチャネル」をスタートします。「NPTEchイニシアティブ」に加えセミナーやトレーニングの実施、伴走支援などを通じて、NPOのデジタル基盤の強化を支援していきます。



渡辺氏



参考資料

◎事例紹介③ 長谷川 隆二（はせがわ りゅうじ）氏

活動助成と「HEROs（ヒーローズ）」というトップアスリートによる社会貢献活動について紹介します。

助成団体は多数あり、それぞれに特色があります。例えば日本財団では、モデル的な事業が対象となります。一方、地域財団の場合は、地域にとっての必要性が重視されます。やりたいことと、助成団体が持っている方向性が合致しているかどうかの見極めが大切です。

助成団体では、助成対象の団体を選考するにあたり、事務局が事前に調査を行い、審査委員会に付議します。日本財団では、組織の状況、設立の経緯や実績、団体のミッション、事業の目標や計画、社会的インパクト、さらに助成終了後の継続計画などを総合的に審査しています。

次に「HEROs」というプログラムを紹介します。

これは、トップアスリートとともに社会課題に取り組み、彼らの影響力を通じて応援の輪を広げていく活動です。アスリートの中には、ボランティア意識の高い方が多くおられます。日本財団では、そうしたアスリートの活動を応援するプラットフォームを設けています。

現在、HEROsには日本代表経験者やプロアスリートなど約360名が参加しています。その中には災害支援グループもあり、BリーグやJリーグなどのチームを通じて、多くの協賛企業から支援物資が集まります。人手を要する支援活動では、被災地近くの高校生やスポーツチームと連携して取り組むなど、人々が支援に関わるきっかけづくりにもつながっています。

参加アスリートたちは、現地の声をしっかりと受け止め、広く発信しています。環境問題や子ども支援にも力を入れており、パラアスリートも活躍中です。自身の経験をもとに語るアスリートの言葉には、大きな説得力と重みがあります。

スポーツやアスリートの力によって、社会活動の幅がさらに広がる可能性があります。今後も、こうした取組を通じて、連携して新たな事業を創り出していきたいと考えています。



長谷川氏



参考資料

◎トークセッション/交流タイム

(質問) トップアスリートがそこまで社会貢献活動に取り組む理由は何でしょうか？

(長谷川) 現役時代、多くの方から支援を受けてきました。アスリートには「人を喜ばせる力」があります。引退後も、自分の力で人々が喜ぶ姿を見ることは大きな喜びです。



トークセッションの様子①

また、感謝の気持ちを持ち、それをきちんと表現して応援を得てきた経験から、コミュニケーション力が高い人が多いです。

成功の方程式がない中で挑戦し続けてきた人たちなので、非常にバイタリティがあると感じます。

(質 問) 社会の中には、まだ活用されていない資源や、新しい形で生かせるリソースがたくさんあります。そうしたものを掘り起こすためのアドバイスはありますか？

(渡 辺)今の社会は昔に比べて細分化され、ニッチなマーケットが増えています。だからこそ、そうした領域を見つける嗅覚やセンスを磨くことが大切だと思います。

(長谷川)「良いことをすれば、自分に返ってくる」と思います。

NPOの皆さんが取り組んでいる良い活動に、より多くの人を参加させるために知恵を使うと良いのではないのでしょうか？

きっかけとなる機会を作り、その人に何かをお願いして巻き込むことが重要です。

(白 鳥)相手のことを“資産”や“宝”と思わないことが大切です。

課題を一緒に眺める仲間になりましょう。そうすることで、「私はこれを持ち寄り、あなたはそれを持ち寄る」という関係が生まれます。

(質 門)新しいことに挑戦しようとする団体に、アドバイスをお願いします。

(渡 辺)社会や制度は常に変化しています。新しい方向や制度（例えば、SDGsや合理的配慮）などうまく組み合わせて発信すると、より多くの人に聞いてもらいやすくなると思います。

(長谷川)明確な目標と、その達成イメージを持つことが大切です。

目標があれば、そこへ到達する道はいくつもありますし、相談もしやすくなります。

(白 鳥)新しい取組を始める際には、似たような活動の先事例を探してみてください。ITの活用などにも類似の事例があるはずです。そうした事例は、進め方のヒントになります。

(山 下)最後に、NPOへのメッセージをお願いします。

(白 鳥)社会課題に関心を持つ人は確実に増えています。多様な関わり方を用意することで、応援の輪をさらに広げてほしいと思います。

(渡 辺)関心を持っている人たちに、効果的に情報を届けることが大切です。私たちのプログラムも活用しながら、多くの方を巻き込める団体になって欲しいと感じています。

(長谷川)NPOの役割や価値をもっと知ってもらい、広げていくことが必要です。

楽しい雰囲気、明るい雰囲気、「仲間になりたい」と思える雰囲気、そして新しい人を歓迎する空気をNPO全体で作っていきましょう。

一番やってはいけないのは、「分かってくれない人」を排除することです。誰もが参加したくなるような温かい場を広げていけたらと思います。



トークセッションの様子②



トークセッションの様子③



トークセッションの様子④



認定NPO法人こつこつと
長谷川氏の対話の様子

聴かせて
NPO!

※ちょっと気になるNPO団体を紹介します※

《NPO法人 リーブ・ウィズ・ドリーム》

～歩きやすいまちってなんだろう？～

リーブ・ウィズ・ドリームは「歩きやすいまちって何だろう？」をテーマに、さまざまなバリアに不自由を感じている人、感じていない人が集まってバリアフリーマップを作り、発信する活動をしています。「歩きやすいまち」は誰にとっても歩きやすいまちなのか、そのためにはどんな情報を発信すればよいのかを日々考えながら「まち」の調査を行い、地図を作っています。

♪当センターで行われる「第197回市民とNPOの交流サロン」にご登壇いただきます♪

開催日時：2025年12月11日(木)18時45分～20時45分 ※是非ご参加ください。

申込みは
こちらから

参加方法：オンライン(詳細は<https://snponet.net>)
語り手：NPO法人リーブ・ウィズ・ドリーム 理事長
金子 久美子 氏
参加費：無料

主催・問合せ：一般社団法人NPO協働機構
【電 話】03-5206-6527
【E-mail】hiroba@s-nponet.net
後援：新宿区



センターからのお知らせ

【ワークショップ講座①②】

講座

～目的に応じたワークショップのノウハウを学ぶ～

【日 時】 12月6日(土)13:00～17:00

【内 容】 ワークショップは、ものづくり、会議・研修、芸術の場など様々な場所で行われています。参加者がディスカッションや作業を経て新しいものを作り出したり、問題を解決していくにはどのように進行すればよいのでしょうか？この講座では、ワークショップを実際に体験しながら、そのノウハウを学びます。

【講 師】 井上 晶夫 氏(NPO法人CRファクトリーコミュニティマネジメント認定インストラクター)

【会 場】 当センター 1階多目的室

【参加費】 2,000円(資料代等)※オンライン参加はありません。

【定 員】 会場(先着順)20名

【Word Press講座】

講座

～Word Pressでホームページを作ってみよう！（入門編）～

【日 時】 12月20日(土) 13:30～15:30

【内 容】 イベント周知などNPO活動にはWebの活用は欠かせません。この講座では、初心者の方を対象に、世界中で活用されている無料ホームページ制作運営ソフト WordPressを使用して、団体の広報・PR活動を拡大するためのホームページ作成の基本を、体験学習を通して学びます。

【講 師】 山本 武彦 氏(NPO法人粋なまちづくり倶楽部 理事)

【会 場】 当センター 501会議室

【参加費】 1,000円(資料代等)※オンライン参加はありません。

【定 員】 会場(先着順)20名※Wi-Fiに接続が可能なパソコンをご持参ください。

※詳細はHPにてご確認ください

★参加ご希望の方は、電話、FAX、メールにて、下記お問い合わせ先へご連絡ください。

★講座・イベントは変更・延期又は中止する場合がございます。最新情報等につきましては、当センターHPをご参照ください。【URL:<https://snponet.net/>】

【申込みフォーム】

センターHP



Peatix



情報・お問い合わせ

TEL : 03-5386-1315

FAX : 03-5386-1318

E-mail : hiroba@s-nponet.net URL : <https://snponet.net>

Facebook : <https://www.facebook.com/shinjuku.npo.center>

アクセス

〈バスでお越しになる場合〉(いずれの停留所からも徒歩で4分)

- 各線 新宿駅 西口より関東バスで「小滝橋」下車 (乗車時間10分前後)
西口地下より標柱番号12・14を上った乗場から出るバス (すべて)
- 各線 高田馬場駅 早稲田口より都バスで「小滝橋 (郵便局前)」下車
(乗車時間5分前後) 早稲田口を出て目の前、高架下の乗場

〈最寄駅から徒歩でお越しになる場合〉

- 東京メトロ東西線 落合駅、西武新宿線 下落合駅より徒歩12分
- JR山手線・東京メトロ東西線・西武新宿線 高田馬場駅、JR中央線 東中野駅・大久保駅、都営大江戸線 東中野駅・中井駅より徒歩15分

作成&発行

新宿区立新宿NPO協働推進センター

指定管理者：一般社団法人NPO協働機構 (コラボ・ジャパン)
(〒169-0075 新宿区高田馬場4-36-12)

編集：関根 聡史 林 幸靖 月岡 英人



新宿NPO協働推進センターは、社会貢献活動団体のネットワークづくりの拠点施設です！

センターでは、社会貢献活動団体への施設の貸出しの他、相談や情報提供、講座等、さまざまな事業を実施しています。